

キッズプロジェクト

横浜大会は、子ども達がスポーツやトップアスリートと間近に触れ合える機会、また大会を支える観点から大会に携わる機会を、「横浜子どもスポーツ基金」を通じて創出しています。

「横浜子どもスポーツ基金」は、2013年（平成25年）に世界トライアスロンシリーズ横浜大会をきっかけにジョンソン株式会社のご寄附により創設されました。障害のある子ども達等が「スポーツ」を通じて夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境づくりの実現を目指しています。

横浜子どもスポーツ基金



Yokohama Children Sports Foundation

「横浜子どもスポーツ基金」は創設6年目の2018年度に、東京2020大会に繋がるレガシーへの取組として「実践」「継続」「挑戦」を新たなコンセプトに加えました。今年度も引き続き、「トライアスロン・パラトライアスロンの街、横浜」の実現を目指して事業を展開しています。

長期展望

スポーツを通じて、すべての子ども達が「夢」「希望」を持てる社会3つのビジョン

- 1 障がい者アスリートの発掘・育成
- 2 誰もがスポーツを継続的にできる環境づくり
- 3 多くの方々が参画する「横浜子どもスポーツ基金」

事業計画（目標）

- 1 目指せ日本代表
- 2 障がいのある子どもたち等のスポーツ参加を拡大
- 3 プロモーションの展開
- 4 経済的支援の拡充

1 キッズプロジェクト

子ども達が障害の有無に関わりなく大会運営に携わり、さまざまな場面を体験しトライアスロン競技を通じてトップアスリートの間近に感じてもらえるプロジェクトを実施しました。

今年も多くの応募があり、抽選で72名（平均倍率約3.5倍）の子ども達が参加し、スポーツを通じて「する」・「みる」・「ささえる」ことの大切さを学び、競技に挑むアスリートの姿を身近に感じることができる機会となりました。

ハイタッチキッズ



エスコートキッズ



ビクトリーブークキッズ



エイドキッズ



子どもスポーツ記者



2 横浜子どもスポーツ新聞

大会前日の5月17日（金）、ワークショップ参加のために集まった「子どもスポーツ記者」のキッズ達は、ニコンイメージングジャパンと日刊スポーツ新聞社のご協力により、デジタル一眼レフカメラの操作方法や新聞記事の書き方を教わりました。

当日は、ニコンイメージングジャパン貸出しのカメラを使ったレース風景の撮影や、エリートパラトライアスロン選手への取材を行い、それぞれが感じたことを後日記事にまとめました。

完成した「横浜子どもスポーツ新聞」は、6万人を超える市内小学校の全5・6年生と、東日本エリアの日刊スポーツ新聞定期購読世帯約100万世帯に配布されました。



3 キッズドリームフェスタ

横浜子どもスポーツ基金の提供を受けて、これまで実施してきた「キッズプロジェクト」に加え、第10回大会を記念して「キッズドリームフェスタ」を展開しました。

子ども達が幸せになる願いを込め、横浜子どもスポーツ基金のイラストを描いた上田藍選手も応援に駆けつけてくれました。

